

令和 8 年度 第 1 回生野区区政会議 全体会

1 開催日時

令和 8 年 7 月 14 日（火） 19 時 00 分～

2 開催場所

生野区役所 6 階 大会議室

3 出席者

（区政会議委員） 23 名

森口委員、長谷川委員、平島委員、和田委員、西村委員、浮田委員、中村（寛）委員、北山委員、須郷委員、安藤委員、杉浦委員、井筒委員、玉井委員、田村委員、渡辺委員、足立委員、安委員、マヤ委員、中村（一）委員、松崎委員、幸川委員、吉住委員、今井委員

（大阪市会議員） 4 名

木下議員、武議員、原口議員、山田議員

（その他関係者） 7 名

田中様、多田様、新井様、伊藤様、三木様、船方様、北口様

（生野区役所） 16 名

齋藤生野区長、大川副区長、宮城総務課長、中條地域まちづくり課長、竹中まちづくり推進担当課長、河野安心まちづくり担当課長、長谷川教育支援担当課長兼教育委員会事務局総務部生野区教育担当課長、山崎教育委員会事務局総務部学校適正配置担当課長兼生野区役所地域活性化担当課長、嶋田教育委員会事務局指導部首席指導主事兼生野区役所こども未来担当課長、松村保険年金担当課長、森生活支援担当課長代理、森岡保健福祉課長、藤原子育て支援担当課長、武田窓口サービス課長、金田区政推進担当課長、保井区政推進担当課長代理

4 議事

（1）部会報告

くらしの安全・安心部会 / まちの未来部会 / こどもの未来部会

（2）その他

5 配布資料

- ・資料1 令和7年度生野区の取組について～振り返り～
(全体会・各部会共通)
- ・【参考資料】主なご発言内容（令和8年度 第1回生野区区政会議
くらしの安全・安心部会、まちの未来部会、こどもの未来部会）

6 会議内容

○金田区政推進担当課長

それでは皆さま、お待たせいたしました。お時間になりましたので、ただ今から、令和8年度第1回生野区区政会議全体会を開催させていただきます。

本日はご多用のところ、当会議にご出席いただき、ありがとうございます。

私は、事務局の生野区役所総務課の金田と申します。着座にて失礼いたします。どうぞよろしくお願いいたします。

さて本日ご出席の委員の皆さまをご紹介します。委員名簿の順でお名前をお呼びいたしますので、お名前を呼ばれた際は、お手数ですが、ご起立いただきますようお願いいたします。

森口委員でございます。

○森口委員

よろしくお願いいたします。

○金田区政推進担当課長

長谷川委員でございます。

○長谷川委員

よろしくお願いいたします。

○金田区政推進担当課長

平島委員でございます。

○平島委員

よろしくお願いいたします。

○金田区政推進担当課長

和田委員でございます。

○和田委員

よろしくお願いいたします。

○金田区政推進担当課長

西村委員でございます。

○西村委員

西村です。よろしくお願いいたします。

- 金田区政推進担当課長
浮田委員でございます。
- 浮田委員
よろしくお願いします。
- 金田区政推進担当課長
中村寛子委員でございます。
- 中村（寛）委員
こんばんは。よろしくお願いします。
- 金田区政推進担当課長
北山委員でございます。
- 北山委員
こんばんは。よろしくお願いします。
- 金田区政推進担当課長
須郷委員でございます。
- 須郷委員
須郷です。よろしくお願いします。
- 金田区政推進担当課長
安藤委員でございます。
- 安藤委員
安藤です。よろしくお願いします。
- 金田区政推進担当課長
杉浦委員でございます。
- 杉浦委員
杉浦です。よろしくお願いします。
- 金田区政推進担当課長
井筒委員でございます。
- 井筒委員
よろしくお願いします。
- 金田区政推進担当課長
玉井委員でございます。
- 玉井委員
玉井です。よろしくお願いします。
- 金田区政推進担当課長
田村委員でございます。
- 田村委員
よろしくお願いします。

- 金田区政推進担当課長
渡辺委員でございます。
- 渡辺委員
渡辺です。よろしくお願いします。
- 金田区政推進担当課長
足立委員でございます。
- 足立委員
こんばんは。よろしくお願いします。
- 金田区政推進担当課長
安委員でございます。
- 安委員
こんばんは。よろしくお願いします。
- 金田区政推進担当課長
マヤ委員でございます。
- マヤ委員
こんばんは。よろしくお願いします。
- 金田区政推進担当課長
中村一仁委員でございます。
- 中村（一）委員
よろしくお願いします。
- 金田区政推進担当課長
松崎委員でございます。
- 松崎委員
よろしくお願いします。
- 金田区政推進担当課長
幸川委員でございます。
- 幸川委員
幸川です。よろしくお願いします。
- 金田区政推進担当課長
吉住委員でございます。
- 吉住委員
吉住です。よろしくお願いします。
- 金田区政推進担当課長
今井委員でございます。
- 今井委員
よろしくお願いします。

○金田区政推進担当課長

なお、長田委員、大久保委員、村岡委員、山平委員につきましては、本日所用により欠席でございます。本日の会議は、委員定数 27 名に対し 23 名のご出席があり、定数の 2 分の 1 以上の出席にて有効に成立していることをご報告いたします。本日の傍聴者はゼロとなっております。

続きまして、条例第 8 条第 1 項に基づく市会議員の皆さまのご出席について、50 音順でご報告いたします。

木下誠議員でございます。

○木下議員

こんばんは。よろしくお願いします。

○金田区政推進担当課長

武直樹議員でございます。

○武議員

こんばんは。よろしくお願いします。

○金田区政推進担当課長

原口悠介議員でございます。

○原口議員

こんばんは。よろしくお願いします。

○金田区政推進担当課長

山田正和議員でございます。

○山田議員

こんばんは。よろしくお願いします。

○金田区政推進担当課長

同じく、関係者としまして、歴代の議長等を務められました皆さまのご出席について、ご報告いたします。

田中照章様でございます。

○田中様

田中です。よろしくお願いします。

○金田区政推進担当課長

多田龍弘様でございます。

○多田様

よろしくお願いします。

○金田区政推進担当課長

新井光淑様でございます。

○新井様

よろしくお願いします。

○金田区政推進担当課長

伊藤廣美様でございます。

○伊藤様

こんばんは。よろしくお願いします。

○金田区政推進担当課長

三木幸男様でございます。

○三木様

よろしくお願いします。

○金田区政推進担当課長

船方ひとみ様でございます。

○船方様

よろしくお願いします。

○金田区政推進担当課長

北口充宏様でございます。

○北口様

こんばんは。よろしくお願いします。

○金田区政推進担当課長

区政会議に関する本市の規則によりまして、本日出席された委員の方のお名前、発言内容等が公開されます。事務局において会議録を作成し、後日、区のホームページ等で公開させていただくほか、会議の様子を収録しまして、後日YouTubeにおいて配信し、どなたでも閲覧できるような形にしていきたいと思いますので、録音や撮影について、ご了承のほどよろしくお願いいたします。なお、会議録を作成する都合上、ご発言の際はマイクを使用いただきますようご協力をお願いいたします。

また、本日の会議では様々なご意見をいただきたいと思いますと考えておりますが、ご発言内容につきましてはお互いを尊重しながら活発な意見交換ができる場となりますようにご配慮をよろしくお願いいたします。

さて、本日の全体会では、5・6月に開催いたしました各部会でいただきましたご意見等について、共有させていただきますので、よろしくお願いいたします。

続きまして、本日の資料についてご説明いたします。

「令和8年度 第1回生野区区政会議 全体会 次第」をご覧ください。そちらに本日の会議資料を記載しております。

まず、資料1としまして、事前に送付しております「令和7年度生野区の取組について～振り返り～（全体会・各部会共通）」というA4縦の資料。こちらを本日お持ちでない方は必要に応じてスクリーンに投影させていただきます。

次に、参考資料としまして、先に開催し、各部会でいただきました「主なご発

言内容」という A4 横の資料がございます。なお、今回は各部会で「区として特にご意見やアドバイスをいただきたいこと」としてご意見を頂戴した内容、そして当日のご発言に対しまして説明した区の考え方、さらにご発言に対して、改めて区役所より回答するものとなっておりますのでご確認ください。

参考資料がない方は、挙手いただければ事務局からお持ちいたします。

次に、今年度最初の全体会となりますので、4月1日付けの人事異動で新たに着任した方をご紹介します。

生野区長の齋藤です。

○齋藤生野区長

齋藤です。よろしくお願いします。

○金田区政推進担当課長

地域まちづくり課長の中條です。

○中條地域まちづくり課長

中條です。よろしくお願いします。

○金田区政推進担当課長

安心まちづくり担当課長の河野です。

○河野安心まちづくり担当課長

河野です。よろしくお願いします。

○金田区政推進担当課長

教育支援担当課長の長谷川です。

○長谷川教育支援担当課長兼教育委員会事務局総務部生野区教育担当課長

長谷川です。よろしくお願いします。

○金田区政推進担当課長

教育委員会事務局総務部学校適正配置担当課長兼生野区役所地域活性化担当課長の山崎です。

○山崎教育委員会事務局総務部学校適正配置担当課長兼生野区役所地域活性化担当課長

山崎です。よろしくお願いします。

○金田区政推進担当課長

総務課区政推進担当課長代理の保井です。

○保井区政推進担当課長代理

保井です。よろしくお願いします。

○金田区政推進担当課長

そして私は区政推進担当課長の金田です。皆さま、どうぞよろしくお願いします。

それでは、これからの議事進行につきましては、森口議長にお渡ししますので、森口議長、よろしくお願いいたします。

○森口委員

議長の森口です。

ただいまから、令和8年度第1回生野区区政会議全体会を開催します。

それでは、開催にあたりまして、齋藤区長からごあいさつをお願いします。

○齋藤生野区長

皆さま、改めましてこんばんは。生野区長の齋藤でございます。どうぞよろしくをお願いいたします。本日はお忙しい中、生野区区政会議全体会にご出席いただき本当にありがとうございます。先日の大雨により、区内でも浸水被害などがございました。地域の皆さまには大変ご心配をおかけしたところです。被害に遭われた皆さま方に、お見舞い申し上げます。この件につきましては、後ほど区役所よりご報告させていただきますので、よろしくをお願いいたします。また、皆さまにおかれましても、いざという時のために、日頃からの備えをお願いするとともに、今日も暑いですが、これから非常に暑くなつてまいりますので、熱中症対策など体調管理にもお気をつけていただきたいと思います。

さて、委員の皆さまにおかれましては、先に開催しました各部会において、本当に熱心にご議論いただきました。令和7年度の取組の振り返りでしたり、区役所として特にご意見・アイデアをいただきたいテーマにつきまして、貴重なご意見を頂戴しました。誠にありがとうございました。頂戴した意見を区役所内で共有し、また今日の議論も踏まえて、今後の区政運営に生かしてまいりたいと思っております。本日は各部会の報告をさせていただき、委員の皆さまと共有してまいりたいと思っております。

また、この度、教育委員会事務局の方で取りまとめました「小学校の配置の適正化に関する検証報告書」が大阪市のホームページに掲載されました。これまでの区政会議の中でもご意見があった内容ですし、後ほどこの件についても触れさせていただきたいと思っておりますので、ご参考にご覧いただけたらと思っております。私は全ての部会に参加させていただきましたが、本当に活発なご議論をいただいたところだと思います。今日も部会同様に忌憚のないご意見をいただきまして、活発な議論の場になればと思っておりますので、限られた時間ではございますが、どうぞよろしくお願いいたします。

○森口委員

ありがとうございました。

それでは、議事に入りたいと思いますが、その前に、最近大雨の影響で生野区内でも浸水被害などが発生している状況ですが、区役所より当内容について報告があるとのことですので、よろしくお願いします。

○河野安心まちづくり担当課長

安心まちづくり担当課長の河野でございます。貴重なお時間を少しいただい

てご説明をさせていただきたいと思います。まず、この度の大雨により浸水等の被害に遭われた皆さまに心よりお見舞い申し上げます。説明は着座にてさせていただきます。

大雨の関係で、建設局から聞いている内容についてこの場をお借りしてご説明させていただきます。今里筋のマンホール蓋飛散につきまして、6月26日未明からの大雨によりまして、今里筋においてマンホールの蓋が飛散、アスファルト舗装がめくれる事象が発生いたしました。今里筋の地下には、降った雨を一時的に貯留し浸水を軽減するため、直径5mの雨水幹線が整備されておりますが、大量の雨水が一気に流入したことにより管内の空気が圧縮され、その圧力により、マンホールの蓋などが飛散したものでございます。発生直後に今里筋の北行き車線を一部交通規制するとともに、緊急工事を行い、翌27日1時半ごろ、安全確認の上交通規制を解除しております。

なお今里筋におきましては、これまでも同様の事象が発生しており、対策工事を実施しておる中、今年度末で完成予定でございました。今年度末の対策工事完了までの間、当面の緊急対策として、空気が抜けやすい構造のマンホール蓋に交換しております。このマンホール蓋については空気が抜けやすくなるため、臭気が発生することがありますが、安全管理上、ご理解のほどよろしくお願いいたします。

続きまして、住之江抽水所雨水ポンプ停止についてです。住之江抽水所に設置している、なにわ大放水路の雨水を住吉川に排水するためのポンプ6基が水没し運転できない状況となっております。また先日の大雨では、なにわ大放水路の最大貯留量30万立方メートルがほぼ満水となっておりますが、現在では仮設ポンプを設置して排水を行い貯留水は空になっていると聞いております。住之江抽水所雨水ポンプ停止による影響範囲につきまして、生野区では概ね勝山通りから南側、今里筋から東側のエリアが示されておりますが、通常程度の雨では、これまでと変わらず雨水処理ができる見込みとのことです。また、大雨に備えてなにわ大放水路では、もう一つの雨水を貯めることができる寝屋川南部地下河川というものがあるそうで、基本的には大きな影響が出ないような対策がとられていると聞いております。しかしながら今後も発生しますゲリラ豪雨や台風、その他想定外の事態に備えるため、大雨が予測される場合には当該区域のパトロールを実施するなど、降雨状況に応じて周辺の警戒にあたっております。

参考ですが、今里筋のマンホール蓋飛散と住之江抽水所内のポンプの故障とは下水の処理区域が異なるため、関連がないと聞いております。区役所としましても、今後動きがあればまた情報発信をしてまいりたいと思います。以上で報告を終了いたします。

○森口委員

ありがとうございました。それでは議事に入らせていただきます。限られた時間で円滑に進めていただけるよう、ここからは学識委員の幸川委員に会議の進行をお願いしたいと思います。幸川委員よろしくお願いします。

○幸川委員

議長からご指名いただきました幸川です。それでは、会議の次第に沿いまして、「議事1 部会報告」に入ります。部会報告の後に、委員の皆さまからご意見をお聞きしたいと思っております。よろしくお願いいたします。では最初にくらしの安全・安心部会を私から報告させていただきます。

横置きの参考資料をご覧ください。今回、区役所の方から意見交換のテーマとして提示されたのは、地域自主防災力の強化についてでした。1 ページ目をご覧ください。まず委員からの主な発言として、以下のようなものがありました。地域で防災訓練を行った際に、自宅避難できている人は玄関先に白いタオルをかける取組をしているが、地域に浸透しておらず、回覧板やホームページ掲載などで周知していきたいという意見がございました。それから、毎年2月に行われる生野区一斉防災訓練に参加しているが、防災リーダーの存在感が薄いので、お揃いのユニフォーム着用や仮設トイレ設営、ポンプ操作などのパフォーマンスを行っていききたいと思っているというご意見。そして、防災のことを全く理解されていない人に防災の活動をやっていただくとしても、行政側や防災リーダーがイメージしていることと、全く防災のことが分からないけどこんなことなら協力ができるという人、もしくは災害により助けて欲しいという人とがうまく繋がらないイメージがある。なので、行政側や防災リーダーの方々がどのように繋げていただけるのかというのを教えていただきたいという意見がありました。そして2 ページ目をご覧ください。防災訓練では、どうしたらいいのか分からないことが多く、指示命令系統が整っておらず指揮者が分かりにくいので、行政や防災リーダーが違う色のユニフォームを着るなど、識別できる工夫があるといいのではないかという意見がありました。また、19 校区全て事情が違うため、均一的なやり方では防災力強化に繋がらないのではないか。地域に合った工夫が必要だと思われる。今年度から防災リーダーは生野区より委嘱を受け、専門的事項は各地域で自主的に取り組むという認識ですが、物品購入等に必要な来年度の予算確保をしてほしいという意見がございました。また、区役所が区民向けの YouTube チャンネルで防災情報を発信し、防災リーダーが地域周知してはどうかというような意見も出ておりました。

また、見守り隊も担い手不足で、保険加入や活動状況が地域で異なっているため、組織として方向性を行政で整理してほしいという意見もございました。

そういった意見に対しての区の考え方は、資料の方をご覧ください。そしてまた、1 ページ目に戻りますが、出されたテーマの地域自主防災

力の強化以外にも、出た意見がございました。地域のホームページの更新支援が不足しており、防災マップもここ 10 年ほど更新がなされていないのではないかと。それからまちの中に多言語表記が少なく、道路や店の案内などで、もうちょっと増やす取組が必要ではないかというような意見もございました。先ほども申しましたように、区役所からの回答は資料をご覧くださいと思います。以上、くらしの安全・安心部会からの報告です。また資料をご覧ください。よろしくお願いします。

では続きまして、まちの未来部会からの報告をお願いします。

○吉住委員

私からまちの未来部会について報告させていただきます。当部会では主に区が発信する情報、まちの未来部会なので、産業振興や賑わいづくりに関する情報について、届く相手が限定的であること、そして情報発信が一方通行になってしまっていること、簡単に言うところのような課題についての意見交換を行いました。区役所からは、広報紙を毎月発行していて、ホームページ・SNS の活用も既にされているものの、イベントに来られる方の顔ぶれが大きくは変わらず、若い世代にはなかなか情報が届いていないという課題感が示されましたので、この前提を委員の皆で共有した上で、具体的な意見をいただきました。簡単に紹介させていただき、最後にそこから見えてきたアクションについても報告させていただきます。具体的な意見ですが、多くは誰に何を使って届けるかという組み合わせについての意見が多かったという印象を持っています。まず、若年層や子育て世代に対しては、TikTok をはじめとする SNS の活用が有効ではないかというご意見がありました。一方で、ご高齢の方には、直接顔を合わせたコミュニケーション、お話を伺う場という方が効果的であるというような意見がございました。一つ特徴的な意見としては、年齢で区切るのではなく、例えば生野区に多くおられる製造業に従事されている方には、作業をしながら耳だけで情報を得たいという層が一定おありなので、ラジオという媒体が有効ではないか、コミュニティ FM みたいな取組もうまく組み合わせることができないかというようなアイデアが出てきました。この他で言いますと、ホームページの構成そのものを見直してはどうかというアイデアや、既に活躍いただいている社会福祉協議会のボランティアの方々などにご協力いただいて情報を発信してはどうかという意見もいただきました。最後に既存のインフラの見直しとして、地域に掲示板がありますが、あまり活用されていない箇所もあるということで、この再活用ですとか、広報紙は既に充実してますが、例えば QR コードの付いている記事が実際どれくらい読み取られてるかが分からないと、その結果の活用が難しいという声が出てきました。たくさん言いましたが、こう並べますとそれぞれの異なる手段のように思えますけども、大きく一つは情報の担い手、発信源そのものが減って

きてしまっているというのは事実ですので、かつては町会長さんや班長さんがやっておられたことを、どうやって他の手段なりを使って情報発信していくかということが大きな課題になると思います。二つ目の課題としては、受け手側としてもたくさんの情報に日々接していますから、情報が多すぎると区民の皆さまも、どの情報がどこにあって何を伝えたいのか分からないというような状態になると思いますので、これを受け手側からも考える必要があろうということでございます。最後三つ目は、冒頭でも言いましたが、情報のやり取りがやや一方通行になってしまっているの、区民の声がどうやったら区役所に戻るのかという、そういった通路の整備が必要ではないかというような意見が出ました。課題を列挙しましたが、どうするのかということについても意見が出てきて、大きな方向性として、既に世の中にはたくさん方法があるので、まずは区役所に全てお願いするというのではなく、今日参加している委員の皆さまが小さく自分たちのコミュニティの中でやってみて、それをこの区政会議の場なりで委員同士で共有して、何がどうすると良いのかという意見交換をするのはどうかというアイデアが出ておりました。ただその情報のフィードバック、何がどういう結果になったかという広報紙の読み取られた数につきましては、当日も区役所から回答がありましたが、QRコードからの閲覧数のカウントは難しいものの、どうやったら効果測定できるのかという仕組みの検討については、可能な範囲で引き続きよろしく願いできればと思っております。以上、まちの未来部会からの報告の内容になります。

○幸川委員

ありがとうございます。続きまして、こどもの未来部会からの報告をお願いいたします。

○今井委員

では、こどもの未来部会から報告いたします。意見交換のテーマですが、地域や区では子育てに関する相談イベントがたくさん開催されているわけですが、支援を必要としている家庭ほどそういった情報が行き届かないという問題があるので、そこに対してどのような形で効果的に支援情報を届けられるかといった内容でした。委員の皆さまからはたくさんアイデア・ご意見をいただきました。4ページ目は主に地域の中にある繋がりなどの資源を活用して情報を届けるというものです。一つ目は防災の勉強会や子ども食堂など、既にある繋がりの中に積極的にこういったご家庭の方に来ていただけるような仕掛けとか、声かけをどのようにしていくかということが大事なんじゃないかといったことですとか、二つ目は、昔であれば町内会などで子育てに関する情報が共有されていたが、そういったものが近年高齢化もしてきている中で、仕組みを作り直すにはどうしたらいいか、こういったものも活用を再検討してはどうかというご意

見もありました。先ほど SNS の話も出ていましたが、やはり顔が見える関係でないと、深い相談はできないので、「この人なら相談しよう」という人と人との繋がり、これも先ほど話に出ていましたが、役員の方や、この会議に来ていらっしゃる方々も一つで、信頼に基づいて広げていくという方法が重要なのではないかと思います。あと、ご自身が経営している店舗で日本語のサポートをやっていらっしゃる委員の発言でしたが、LINE で外国に繋がる保護者のグループを作って情報交換をされているそうです。このように、まちの中にこういった人が集まるような場所を作っていけたらいいなということでした。また、地域の中に人が繋がる場や子どもが遊ぶ場所みたいなものを町会などで作っていくと保護者が繋がってくるのではないかとアイデアが出ました。5 ページ目は、公的に既にある制度的なものについてもご意見が出ました。やはり区役所がたくさん情報を持っているので、インフォメーションセンターというような形で外国に繋がる方、特に日本語がまだ十分に使えない方の相談窓口になった方がいいのではないかとご意見がありました。あと、保健師さんがとても頼りがいがある感謝しているという前置きがあったうえで、とてもたくさんの業務をされている中で、どうやって子育て層へのアプローチにも関わっていただけるか、何か工夫が要るんじゃないかといったご意見でした。あとの三つは生野区に対する少し厳しめのご意見もあったのですが、子育てに関するイベントを実行委員会形式でやるときに、もう少し区にも主導的に動いていただけたらいいのではないかとといったご意見や、今回のようなテーマであれば、こういったターゲットが本当に困っていたり、情報が行き届いていないのかという具体的な数字などをもう少し提示してもらい、私達ができることをもう少し具体的に考えていきたいといったご意見がありました。こういったアイデアが出た後にどれだけお金などを投入できるのかといったところも一緒に考えて考えると、良い議論が進められるのではないかとといったご意見でした。最後のページには、今年度、若者の声を聴くために中学生を対象とした意見交換会を開催すると区役所から報告がありましたが、子どもの権利条約というものもあるので、小学生を対象にした意見交換会もやってもらえたらありがたいといったご意見が出ていました。また、区政会議でこういった話が出た後に、どのようにそれが区政などに反映されていくのかということも、少し目に見えるような形で提示していただけるとありがたいといった意見があったことも少し補足しておきたいと思います。

最後の項目ですが、これまでのこどもの未来部会の中では小学校の統廃合の学校の様子や地域との関係についていろいろと議論が出ていました。先ほど区長の方からご案内がありましたが、そのことに関連して、大阪市のホームページに報告書が出たということなので、ぜひ皆さんも目を通していただき、ま

たご意見をいただけたらと思っております。こどもの未来部会からは以上です。

○幸川委員

ありがとうございました。それでは皆さん、これから意見交換に移っていきたいと思います。先ほど各部会の報告がありましたが、報告に対してご意見やご質問などございましたら、ご発言いただければと思います。感想でも構わないです。今回はどの部会でもいつもよりも積極的に意見が出てくるような取組を少しして、いろいろな意見が出てきています。そういったところを各部会から報告させていただきました。その中で、質問・意見・感想、何でもよいと思いますので、何かあれば発言をお願いしたいと思います。また、先ほど事務局からもお話がありましたが、ご発言は委員の皆さまの個人の感想ではなく、生野区全体を主体的に運営する見方に立って、積極的なご発言、そして、お互いを尊重するご発言をお願いできればと思います。なお、ご発言いただく際には挙手いただいて、お名前を述べていただきますようご協力お願いいたします。いかがでしょうか。部会の報告がありましたが、同じ部会の中からまだこんなこともあったよというようなご意見でもいいかなと思います。他の部会の報告に対しての感想、ご意見でも構いませんので、ぜひよろしく願いいたします。

○安委員

公募委員の安と言います。今朝まで京都の祇園に行っていて、外国人が、生野も多いんですけど、観光客がとて多かったですね。そのことも含めて、中村一仁委員がくらしの安全・安心部会の中で仰っていた多言語表記の問題はとても大事だと思います。桃谷駅近くに私がよく行く喫茶店があるのですが、そこには「やさしい日本語」のステッカーも貼っていて、「やさしい日本語」協力店のマップも以前はあったのですが今はマップがなくなっています。前々区長の山口さんの時には、「やさしい日本語」を推進していて、その講座も何回か受けたことがあります。多言語表記というか、どうもそのあたりについて私が知ってる範囲で言うと、例えばマップが改編されてないという問題があって、ちょっとトーンダウンしているんじゃないかなというのが一点。もう一点は、前区長の筋原さんが仰っていたスーパーシティ型の国家戦略特区について。日本の教育法では、場所は学校を使い、教員免許を持っている人でないと日本語指導ができないという問題があり、それを学校以外の場所で、教員免許がなくても日本語を教えられるようにするというスキームでやろうとしておられました。ヒアリングはしているみたいですけど、進捗状況がよく分からないです。私は韓国人なんですけど、韓国語はあまり堪能じゃなくて、韓国人の友人とは翻訳ソフトを使い、片言の韓国語を並べながらコミュニケーションを取るのもすごく大変です。生野区は居住している外国人がたくさんいて、その人たちとコミュニケーションを取るには、そんな簡単な言葉だけではとても対応できないので、そこは暮らし

ていく外国人にとって本当に生野区は魅力があるっていうのが、人口がどんどん減っていく中でのキーポイントじゃないかなと思います。ちょっと意見もあるのと、役所に対して叱咤激励させていただきたいなと思います。以上です。

○幸川委員

ありがとうございました。2点ですね。多言語表記、やさしい日本語のことと、それから国家戦略特区のことですね。これは区役所の方でお願いしてよろしいですか。

○金田区政推進担当課長

区政推進担当課長の金田です。先ほど安委員から言っていた、「やさしい日本語」については、確かに以前は協力店という形で様々な広がりを見せましたが、現在はあまり取組が進んでいる状況ではございません。協力店の更新もなかなかできていない状況ですが、今年度は新たな更新などを行う形で取組を進めたいと思っておりますので、もう少しお時間をいただき、状況を見ていただけたらと思います。よろしくお願いします。

○大川副区長

副区長の大川です。スーパーシティ型国家戦略特区の件ですが、安委員からございましたように、規制緩和の取組として民間の NPO 団体の方から、日本語指導が必要な児童生徒に関する規制緩和の提案があり、昨年度にその実証実験が行われました。その規制緩和の提案につきましては、内閣府の方で特区ワーキンググループというものを持っていて、その中でいろいろと議論がなされています。最短であれば、昨年度実証実験をされて、特区ワーキンググループで議論された上で、内閣府が持っている諮問会議で諮られて、規制緩和を行うかどうか判断されるという流れになりますが、まだ少し整理が必要な部分があるとワーキンググループの中で議論されて、昨年度の実証実験では結論が出なかったという状況です。ただ、外国人からどんどん集中している地域とそうではない地域があり、生野区を含めて、集中している地域に関しては、やはり何か特別な対応が必要じゃないかということで、前向きに議論されていますので、また引き続き今年度も実証実験をするという形で、同じく NPO 団体から提案をいただいております。その上で来年度に向けてまた検討が進められるという状況になっております。以上です。

○幸川委員

ありがとうございます。安委員よろしいでしょうか。

○安委員

内閣府というか、やる気はあるんですか。実証実験をずっと続けていて、具体的にはできないのであれば、何のことか分からないので。

○大川副区長

この場でどこまで詳しく説明できるかというのがありますが、昨年の12月と今年の6月に2回ワーキンググループが開催されており、昨年来、話が出ているのが、今回の規制緩和の提案です。学校の教育課程の中で「特別の教育課程」という枠組みで事業を実施するという提案になっています。その中で、教員の免許に関する部分についてはかなり長い経過を持っているのでもう少し議論が必要であると、文部科学省の考え方が示されています。ただ文部科学省も非常に前向きに検討を進められておりますので、今後の引き続きの実証実験を踏まえながら、実現に向けて取組が進めばと我々も強く期待しているところです。

○幸川委員

ありがとうございます。他にご意見等はございませんか。

○西村委員

舍利寺の西村と申します。まだ頭の中が整理できていないのですが、くらしの安心・安全部会、まちの未来部会、こどもの未来部会のそれぞれに参加したりオブザーバーとして見学させていただきました。また、今日もいろいろとお話を聞いておりますが、それぞれが全く別物ということではなく、一体のものかなと思っておりますし、そういった観点から考えていらっしゃる方もいるかと思います。今日、ある研修を受けまして、その中で「共生社会の実現を推進するための認知症基本法」という令和5年に公布された法に関する内容がありました。これは、これからどんどん高齢化が進んできて認知症の方が増えていく中で認知症を考えるというもので、共生社会の実現という前置きがついている法律です。うちの町会にもこの4月に突然日本語学校の寮ができたり、高齢化が進み、子どもが少なくなってきましたが、先日、「わんぱく！子ども広場」という子どもたちが自由に遊べる集まりなどをさせていただきました。そこでは子どもたちが自由に遊んで、「こんな面白い遊びはなかった」というような感想ももらいましたが、別に何もしていないんです。ただ竹を切るとか、ダンボールがいっぱいある部屋で遊ぶとか、竹やダンボールを燃やすとかですが、子どもたちは一生懸命遊びに熱中していました。そこでは、竹細工は高齢の方が教えてくれたりするような姿があり、また外国ルーツの子どもさんがプールの中からずっと出ないような姿もあったりして、やはりこれからの生野区は高齢者の方だけでなく、障がいのある方もない方も、外国ルーツの方も大人も子どもも、認知症の方もみんなが集まれるような居場所を作っていくことが求められてるんじゃないかなと、各部会に参加しながら、強く思わせていただきました。ちょっと感想みたいですが、以上でございます。

○幸川委員

ご意見ありがとうございました。他の皆さまはどうでしょうか。今、西村委員に発言していただきましたが、他の方はこれに関して何かご意見ないでしょうか。

か。

○森口委員

北鶴橋の森口です。まちの未来部会の中で、広報紙についていろいろな議論が出ていました。私の記憶が間違っていたら申し訳ありませんが、広報紙が行き渡っていないところがあるから全戸配布にしようということで入札になったという話が確か六、七年前の区政会議であった記憶があるんです。でも今回の意見をお見受けすると、やはりなかなか効果が上がってないということでした。それで、年齢やテーマ別に特化した形でアピールするというのは、広報紙を、例えば夏のイベントだったら、各連合のイベントだけの特化した内容で出すとか、そういうことを須郷委員が言われてるのかということと、平島委員が言われてる、その情報量を絞るというのは、びっしり書き過ぎているということか、 unnecessaryなことが多いから unnecessaryな部分は削除していった方がいいということなのか、どんな感じなのかを参考のためにお聞きしたいと思います。

○幸川委員

今、森口委員からありましたように、広報紙について委員の皆さんからご意見いただきたいと思います。委員の皆さまで、広報紙に関して思うところがある方、こうした方がいいんじゃないかとか、こういうところがどうだとかというご意見がある方、お願いいたします。

○平島委員

平島です。森口委員が言われた通り、広報紙は毎月届いていて、私もよく目を通して、良いと思うのですが、情報量が多すぎて自分が行きたいところで次に行けないんですね。だから、入口だけがあって、どういったらいいかが分かりにくいというのもある。私が言いたいのは、次のところに行きやすい方法・構成を持った情報量にして欲しいのと、あまりにも情報が多すぎるので、今月はこれを特化するなどの方がいいと思っています。以上です。

○幸川委員

ありがとうございました。広報紙について、情報量が多いとか、いろいろなご意見がありました。他の委員の方はどうですか。同じような意見でも、また別の視点からの意見でもいいと思いますが、どうですか。

○マヤ委員

外国人に対してのすごく悲しいことですが、今年の10月以降、ビザのルールなどが変わる予定であることは皆さんご存知だと思いますが、例えば経営管理ビザをお持ちの方の許可基準が資本金 3,000 万円に引き上げられたことは、そのビザをお持ちの方々のすごく不安・心配なこと、すごくパニックになっていることです。今、学校の期末懇談中なので私も今日も通訳で行ってきましたが、いろいろな家族の方と懇談に行ったときに、皆さんの声を結構聞きます。私も経営

者・管理者のビザを持っていて、次の更新のときはどうなるか分らないです。3,000万円を準備できなかったらビザが更新できない可能性も高いです。私のような経営者のビザを持っている方の会社に、従業員として入っている方々もいらっしゃるって、その中には小中学校に通っている子どもの保護者も結構いらっしゃいます。もしその経営者の方のビザの更新ができなかったら、そこで働いている人の家族も全てビザの更新できなくなります。子どもたちの学校はどうなりますか。途中で日本に来て、母語で喋れる書ける読める子どもたちは母国に帰っても多分勉強は続けられると思いますが、日本で生まれて保育園、小学校、中学校に通っている子どもたちは、母国にもし帰ることになったらどうなるのかということが最近すごく心配になっています。日本は日本人だけではなく、いろいろな国の子どものために努力している国なので、自分の国の中で学校に通っている子どもたちとその家族のために何かしてもらいたいです。

国のルールなので、ルールは守らないといけないけど、こんなことをしてほしいとか、ここまでできていなかったらこのくらいできてほしいとか、説明会などの機会を作ってもらうなど、国が少しでも何か考えてくださるとすごく嬉しいです。これは私だけではなく、今生野区や大阪市に住んでいる外国人みんなの声なので、よろしくお願いいたします。

○幸川委員

ありがとうございます。広報紙のこと、そして今マヤ委員からは、もうちょっと情報が欲しいというところも含めてかと思います。マヤ委員がお話したことなど、他の皆さんも知っていた方がいいかなっていう内容を皆さんに知らせるという意味で、そういった内容も広報紙などに含まれてもいいんじゃないかなと今ちょっと感じました。他に広報紙に関して何か思うところがある方はいらっしゃいませんか。

○杉浦委員

小路連合の杉浦です。広報紙は正直ほとんど見ていません。表紙と最後のページを見て、中面は確かに情報がいっぱいありますが、ざくっと見て「関係ないわ」と思って、ほとんど見ていないのが実態です。ただ毎月月初に届きますので、それに関してはすごく楽しみにしています。ちょっと具体的な話になりますが、去年国勢調査がありました。ちょうど筋原区長の時でしたが、実際私も5ブロック担当させてもらったのですが、最近は若い夫婦の方が多くて、そもそも国勢調査が何か全然分かってない人が多いんです。親世代が全部処理していて、自分たちは結婚したけれど、今まで全然やったことがないので、どうしていいか分らないっていう。そもそも協力しようという気持ちがありません。去年もちょうど国勢調査をする月とその次の月にいくらか広報紙に出ていたんですけど、やっぱり広報紙のトップの部分に、国勢調査は5年に1回、日本の人口や、男女や年齢

の比率とかを確認するために必要だということを示して、だからみんな協力しましょうという感じのことを書いて欲しかったのですが、ほとんど触れられていませんでした。ただ、一律に「国勢調査があります」というような感じで、現場の苦勞が全然分かっていません。その時に、私は言ったのですが、ちょっと辛口になりますけど、区役所の方から私たちのところにもずっと指導で来られていましたけれど、まずやったことがない人が形式的なことの説明だけしかしませんので、実際の現場の苦勞というのを分かっていません。国勢調査は去年で22回目です。5年に1回ですので遡ったら大正時代からやっています。昔は結構隣近所の付き合いがあつて、「あんた誰？」じゃなくて、割とお互いにオープンな部分があつたのですが、私は町会長ですが、最近はピンポンを鳴らしても何軒かは表に出てきてくれません。顔が分かっても、そんな状態ですね。

広報紙なんかをね、今度の国勢調査は5年先になりますが、その辺のところを本当に私は有効活用したいと思ひますし、実際にこの中にも、国勢調査の調査員をされた方がたくさんいると思ひますが、本当に苦勞されたと思ひます。正直、110年前からやってることは全く同じだと思ひます。ということで、ちょっと具体的ですが、広報紙に関しては、次の国勢調査の時には、何のためにやるとか、具体的な部分をもう少し簡潔に書いてもらうのをよろしくお願ひしたいと思ひます。

○幸川委員

ありがとうございます。広報紙についての話題から、どんどん地域づくりの方の話に進んでいっているのではないかなと思ひております。今、広報紙についてご意見を聞いておりますが、残り時間少なくなつてまいりましたので、広報紙のことでも、それ以外でも構いませんのでご意見や質問等ございますか。

○森口委員

ちょっとこの議題から離れますが、先ほど大雨が降つた時の今里筋の云々の話がありました。具体的に1時間当たりどれぐらいの量が降ると危険というか、例えば今回だったら床下浸水や床上浸水があつたところに対して、1時間当たりどれぐらいの雨量が記録されたら、「皆さんちょっと気をつけてくださいね」とかつていうのが、数字としてもしお持ちでしたら知らせてもらえればと思ひます。“大雨”という漠然とした感じだと、私たちは分からないので、数字的に分かれば教えていただきたいです。

○河野安心まちづくり担当課長

河野でございます。大阪市内の下水処理は、大雨に備えて1時間当たり60ミリというのを目標に整備して聞いております。この間の今里筋の時は、観測所によってバラバラなんですけど30分で70ミリ近くの雨が降っていて、いわゆる1時間当たりというよりも短い時間ですごい雨が降り、そこがちょ

っと想定を超えていたと聞いております。実は安心できる量というのは、何ミリという設定はございませんが、今回のこの件を教訓に、建設局としては一応降水量 20 ミリの予報が出たら、20 ミリはそんなに激しい雨ではありませんが、マンホールの蓋が飛んだところのパトロールなんかもやっていきたいと聞いております。詳しいことが分かれば、また広報紙などを通じて皆さまに安心していただけるように周知していきたいと思いますので、一つご協力よろしく願いいたします。

○幸川委員

ありがとうございます。

○中村（一）委員

中村一仁です。先ほど各部会の報告がいろいろありましたが、くらしの安全・安心部会でもまちの未来部会でも、それからこどもの未来部会でも、話の全体を聞いていると、それぞれ繋がりを必要としているのかなと私には聞こえました。その後のお話も伺っていると、情報を共有・シェアするというのを、どうしたらいいのかというのが一つの目標になってるのかなと聞こえました。生野区の将来ビジョン 2023-2026 が手元にあって、『『居場所』と『持ち場』のあるまちへ～『遊んでも暮らしても働いても面白い』異和共生のまちづくり～』と書いてありますが、この言葉自体は、例えば生活レベル、働いてる業種・仕事、住んでる地域・エリア、国籍・人種が違ってても、経済的な利益や政治的なことはあまり関係ない言葉なのかなと思っています。それぞれ自分たちのコミュニティとかカテゴリーがあるとは思いますが、生野区全体として何か皆で協力して目指せるようなものを考えていく必要があるのかなと感じます。その中で、3 部会それぞれの話の要点の一つは繋がりで、私は生野区で働くようになってもう 15 年以上になりますが、他の場所よりも明らかに繋がりが多くて、そこら辺を歩いていても知っている人たちばかりと感じますし、皆さんも感じておられると思います。それでもまだまだ何か繋がりが必要と思っていて、新しい形で繋がりを目指せると、他の区とか市や、都道府県とかに誇れるようなまちになるんじゃないかなと思っていたのですが、齋藤区長、何かご意見をいただけたらと思います。

○齋藤生野区長

ありがとうございます。私も 3 か月生野区で区政に携わらせていただいておりますが、実は以前に東住吉区役所で企画の仕事をしていたこともあり、比べるとという訳ではありませんが、各地域のまちづくり協議会の総会や、先日の紫陽花まつりもそうですし、いろんな事業・イベントに参加させていただいて感じているのは、生野区は本当に元気だし、団体さんたちが出来上がってると言いますか、事業が非常に自立、成熟しているなと感じます。皆さん、ある意味プライドもお持ちで事業も出来上がってしまっているがために、もしかしたら、それぞれを横

串で刺していくところで壁ができていたりすることもあるのかなと感じているところです。それぞれの方が自立しているので、何でも繋げばいいということではないと思うのですが、どう横串を刺していくかは、それこそが異和共生という言葉に象徴されているのですが、それぞれの価値やプライドもしっかり立てながら、壁と壁を取り払うのではなくて、その壁を生かしながら、間にある共通の価値を共有していく、異和共生の基本理念は筋原前区長からも伺い、私も共感して、今それを基本理念に立てさせていただいていますが、そこをどう繋いでいくかっていうことが実は非常に課題かなと思っています。

各部会でも事務局からご説明させていただいていますが、その一つのチャレンジとして今年度「中学生を対象とした意見交換会」を実施し、生徒会メンバーに話し合いをしてもらうことにより、私達が気づきをいただき、そういった課題解決のヒントになればと思っています。

これまで皆さんが培われたことを、未来に向かっていくにあたり、このままでいいのか、またはどう変えていくのがいいのか、繋いでいくのがいいのかということを、しっかり私もサポートさせていただければいいのかなというのをこの3か月で感じているところでございます。お答えになっているか分かりませんが以上でございます。

○幸川委員

ありがとうございます。いろいろなご意見が出てまいりましたが、まだ言い足りない、これを言っておこうという方がいましたら、ラスト1人お願いしたいと思います。

○足立委員

足立です。日本語指導の国家戦略特区はすごく大事ななと思いました。学校で何を言ってるか分からないというような外国にルーツのある子どもたちをマヤ委員などがサポートされているのはすごく大事だし、日本語の習得に生野区が国家戦略特区でやっていくっていうのもすごく大事だと思うのですが、同時に私がすごく心配しているのは、その子どもたちが“日本人”になることを目的としている訳ではなく、あくまで日本で住んでいくための日本語の習得ということなのであれば、やはりルーツやアイデンティティは大切にしてほしいと思います。そういう意味で言うと、公立学校にある民族学級、今は国際クラブと言うんですか、その取組では、在日韓国・朝鮮人の子どもたちのアイデンティティを80年近くずっと育んできて、今は中国・フィリピン・ベトナムなどの子どもたちもいて、その子どもたちが自分自身のルーツを大事にするということを生野区できちんと長年取り組んでいた事も、やはり大事にしないといけないのと同時に、マジョリティー側の私たちがそういう取組に対してリスペクトしないといけないと思います。私は生野区の住民になってから、もう本当に自分が物知ら

ずだったなとすごく感じています。パッと見て自分と同じ日本人だと思って喋っていたけど、韓国・朝鮮ルーツの方だったり、日本国籍を持っていないことすら知らずに当たり前のように話していたことをとても恥じることがあります。子どもたちの中でもマジョリティー側が当たり前としていたことが、差別発言とまで言っていないか分かりませんが、知らない間にマイノリティの人たちを非常に傷付けたり、自尊感情を損なうような結果になってきたのではないかとすごく思っています。最近マイクロアグレッションという言葉を私も学んで、そんなつもりはなくても知らない間に相手を傷付けているということが普通にあるんだと知りました。そう言えば私も、割とちゃんと家事をしているっていう話をした時に「足立さんも女の子やってんな」とか言われて、それは褒められてるのかなと感じたこともありました。また、私自身も「男の子の割には何々」や「女の子の割には何々」など、結構そういう発言をしてきたなと思います。うまく言えないですが、傷付いていたけど、相手はそんなつもりで言ってないっていうのがいっぱいあったなと思って、そういう意味で言うと、生野区ではマイクロアグレッションが溢れているんだろうなと思います。実際私も、差別発言ではないとは思いますが、相手の目の前で「そんなに嫌なんだったら、あなたは国に帰ったらどうですか。」って言った場面もあったし、先ほどマヤ委員が言っていたお店のことも知らないで、日本で商売することや、生きていくことがどれだけ大変かっていうのを知らないままに発言してるのがすごくあったなと思います。そういうことについて区政会議のメンバーや地域でいろいろな活動をしている人たちが学んでいくことも必要なんだなと思っています。子どもたちにとっても、各学校で自分たちのルーツなどを大事にするという取組については、これからもきちんと保障していったほしいなと思っています。ちょっと上手くまとまりませんでしたけど、以上です。

○幸川委員

ありがとうございました。いろいろな意見を皆さんからいただき、ありがとうございました。予定の時間が過ぎていますが、もしどうしてもというご意見がございましたら本当の最後の1人でお願いしたいと思います。

○森口委員

時間を超えてるのに、すみません。

足立さんが今言われた事について、ここにいる私たち区政会議委員が、身近な外国の方に明日から一番にできることと言ったら何ですか。挨拶ですか。声掛けですか。皆さんはそういうところに特化されているお仕事だったりをしてられるから、非常に詳しい内容のどこまで分かるのだと思いますが、ここに来ていてる委員の中には、全くそういうところと関係のない方もいらっしゃいます。そんな我々は、いきなり深いところまでできないので、例えば、「おはよう」「こん

にちは」から始めるのか、「どうしてんの」とか聞いてあげるのか、どんなことから始めればいいと思いますか。

○足立委員

言葉も分からないですから、別に相手の方が例えばベトナム人だからといってベトナム語で挨拶する必要はないと思うんです。「おはようございます」でいいと思います。そういうことを言っているのではなくて、常に困りごとがないかなとか、サポートするっていう機会を持て、やはり分からなかったら聞くのがいいかなと思っています。例えば、ゴミの出し方を間違っている外国人の方がいたら、「やっぱり日本のルール知らんと」って思ってしまうことが多々あります。私もコリアタウンの所でずっとやっていて、最近外国人の観光客が増えたから日本のルール・マナーを知らないんだなと思いながら、ぶつぶつ言いながらゴミを集めたりするのですが、それならば、その時に「こういうルールなんですよ」って言うてみたらいいと思います。この前の部会でもそういう発言ありましたよね。ルールを知らなかっただけで、言うてみたら、分かりましたと言うてきちんと出してくれるようになったりするから、まず私自身が偏見を持って事象だけ見て、その人が日本人だったらそうは思わないのに外国の人だというだけで、「やっぱりルール知らんねんな。あかんな。」とってしまう自分自身に、やっぱり言うていけないといけないと思って。まず言うてみて、そこからまた関係を作っていくといいなと思います。

例えば私が町会費を集めていた時も、シェアハウスに3人で住んでいる若い外国の人たちがいて、日本のルールだからと伝えたら、町会費 3,600 円を1人1,200 円ずつ払ってくれました。日本人でも払わない人がすごく増えてきているのに。そういうところと言うと、外国の人やから最初から声を掛けないっていうのではなくて、ちゃんと事情を話したらいいと思います。うちの地域では毎年夏祭りをしていて、今度もあるのですが、私もちょっとだけお手伝いさせてもらっていますが、多分ベトナムとかの外国籍の方だと思うのですが、子どもたちに可愛い着物などを着せて家族で来られる方がすごい多いんですよ。神社のお祭りというのはちょっと敷居が高いけど、地域のイベントは行きやすいみたいで、そういうイベントに来てくれる外国籍の人が年々増えていて、すごく楽しみにしてくれているんだなと感じます。その時に、皆がウェルカムで、笑顔で一緒にやるっていうのがいいかなと思っているので、まず私たち自身がそういう意識を持つっていうことで普通に接したらいいと思うんですよ。決めつけがあかんのかなと私は思っています。

○幸川委員

ありがとうございます。もうお時間がきましたので、これで意見交換を終了させていただきます。では、議長の方に進行を戻します。

○森口委員

幸川委員ありがとうございました。本日、関係者としてご出席いただいております歴代の議長等を務められました皆さまから、特にご意見のある方はいらっしゃいますでしょうか。ご発言いただく際には挙手のうえお名前を述べていただきますようご協力をお願いいたします。

○多田様

多田と申します。生野区の皆さんがどんな人たちかちょっとお知らせしておきたいことがあります。

阪神や東北で災害があった時に義援金を集めていただきました。その時、生野区では1,000万円集まりました。他の区は1,000万円いかないです。生野区がトップでした。「なぜ生野区はそんなにたくさんの義援金が集まるんですか」と他の区から尋ねられました。「生野区は温かい気持ちの人が多いんですよ」と申し上げました。ということで、生野区の人々は横の繋がりが非常に密にできています。そういう意味で、生野区の人々は素晴らしいなと思っています。だから、これは自慢してもいいと思います。

もう一つ、今懸念しているのが外国籍の方の防災のあり方です。今まで外国籍の方の防災のあり方は全くゼロでした。しかし、これからの防災訓練や避難訓練の時には、外国籍の方を交えるということで、例えば前は日本語学校の生徒さんをお呼びして参加してもらい、パネル表示などで意思を伝達しました。それからポケトークや翻訳機を使う方法もいろいろ検討しておりますので、そういう面で、外国籍の方を交えるということが今後大きな課題かなと思っています。それともう一つ。私は町会長をやっていますが、災害の時に、町会に入ってる人と入ってない人を差別・区別するのはやめておこうということで思っています。以前は町会に入っている人はこっち、町会に入っていない人はこっちとかということを考えていたんです。でも今はそんな考え方はしないで、弱者、体の弱い人を先に優先的に避難してもらおうという考え方に変わっています。その中でも外国籍の方も入ってきているということで、外国籍の方を優先とかということではなく、体の弱い人を優先的に避難してもらうことを基本的に考えています。以上です。

○森口委員

ありがとうございました。他にはありませんか。それでは関係者の皆さまありがとうございました。

それでは「議事2 その他」ということで、事務局から連絡事項ありましたらお願いいたします。

○金田区政推進担当課長

事務局の金田でございます。委員の皆さまお疲れ様でございます。事務局から

一点だけお知らせがございます。各部会でもご説明させていただき、先ほど齋藤区長からも申し上げましたが、令和6年度より実施させていただいております若者を対象とした意見交換会の件でございます。今年度は生野区内の中学校の生徒会を対象として、8月21日に実施を予定しております。これからの未来を担う若い世代から自由で柔軟な発想やご意見を伺える機会になると考えております。開催された内容につきましては次回の区政会議でまた改めて報告をさせていただきたいので、よろしくお願いいたします。事務局からの報告は以上となります。議長にお返しいたします。

○森口委員

それでは本日の会議を踏まえまして、齋藤区長から一言お願いします。

○齋藤生野区長

皆さま、本日は長時間本当にお疲れ様でした。委員の皆さま方からたくさんのご意見を頂戴いたしまして、有意義な会議になったと思っております。本当にありがとうございました。たくさんのご意見がありましたので、全てには触れられませんが、私が感じたことを少し述べさせていただこうと思います。

情報の伝達のお話があった中では、ここに参加しているメンバーそれぞれから小さく伝達して試みてはどうかというお話や、もちろん厳しめのご意見もありましたが、それも生野区に対して愛着があつてのことかなと受け止めさせていただきました。また、森口議長からは、自分たちでできることは何だろうかという問いをしてくださっていました。単に行政に要望するだけではなく、自分たちとしてできることからやっという姿勢が本当にありがたいと思いましたし、区役所職員もそうあるべきだと思っています。この場で答えるだけで終わりということではなく、そのことからの気づきを受けて我々ができることが何なんだろうかと私も自問自答しながら、取り組んでまいりたいと思いました。それ以外にも、「やさしい日本語」のお話もありました。皆さまにお渡しした私の名刺の裏にも「やさしい日本語」を表記させていただいております。多言語対応する窓口も設置させていただいてますが、まだまだ足りない部分があるのかなと職員もみな、苦心しておりますが、皆さまからもご意見をいただきながら進めてまいりたいと考えております。それ以外に、繋がりが必要だという話や国勢調査の話ですね。私も国勢調査に従事されている方に直にお話を伺って、コミュニティが希薄化してる中で協力を得るところの難しさは感じております。やはりデータは本当に大事なものですので、次回は少し先になりますが、広報なども事務的に流すのではなく、従事されてる方の声もしっかりと聞きながら知恵を出し合って、何とか改善できるように、しっかり取り組んでいきたいと思っております。また、これは一つの事例として、我々のいろいろな取組についても、事務的にやるのではなく、いかに効果的にやれるか、従事している方に寄り添った形

も考えていけないといけないかなと感じております。

また、大雨のことについてもご質問をいただきました。まだ調査している部分もございますし、市のホームページも拡充している部分もございます。今後また情報があり次第、我々もどんどん発信していきたいと思っておりますので、よろしくお願いします。

それと、先ほど多田会長からご発言がありました件について。「ちょっと縦割りなんじゃないか」というような私の発言が少し気になったの発言なのではないかと思います。私は、何もそれが悪いという意味で言っているのではなくて、先ほど中学校の生徒会を対象とした意見交換会で意見を聞いてみたいと言いましたのは、子どもたちから見たときに我々のやってることはどう見えるのだろうか、今の生野区のどういうところが好きなのかや、もっとこうしたいというようなことも一度聞いてみたいし、ヒントを得たいということで発言しました。子どもたちが挑戦しようということは皆さん応援したいと思うんです。そういった取組をさせていただけたらということで、少し触れさせていただいたという経緯です。これまで皆さんがされてきたことは本当に凄いなと思っていますし、これを未来に繋げていくために、我々はどのように工夫していけるんだろうか、コミュニティなども今のままでいいのか、より良くするにはどうしたらいいのかということも、皆さんと共感しながら取り組んでいけたらと考えております。少し話が長くなってしまい申し訳ございません。今日皆さまからいただきましたご意見・ご評価につきましては施策の立案段階から把握し、事業の改善に生かしてまいりたいと感じております。

結びになりますが、より良い生野区を作っていくために、引き続き委員の皆さまのお力添えを賜りますようお願い申し上げます。本日は本当にありがとうございます。以上でございます。

○森口委員

ありがとうございました。皆さま円滑な運営にご協力いただき感謝申し上げます。区政会議は我々委員が区民を代表して区政に参画する大切な場です。本日、生野区の取組についての意見の共有がなされましたので、委員の方々につきましては、地域の皆さんに、本日の会議の様子を伝えていただければと思います。それではこれにて令和8年度第1回生野区区政会議全体会を終了いたします。委員の皆さま大変お疲れ様でした。